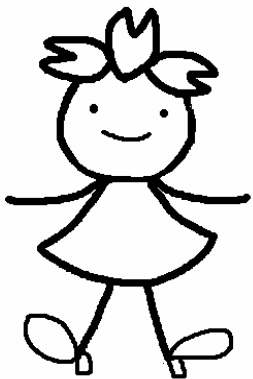
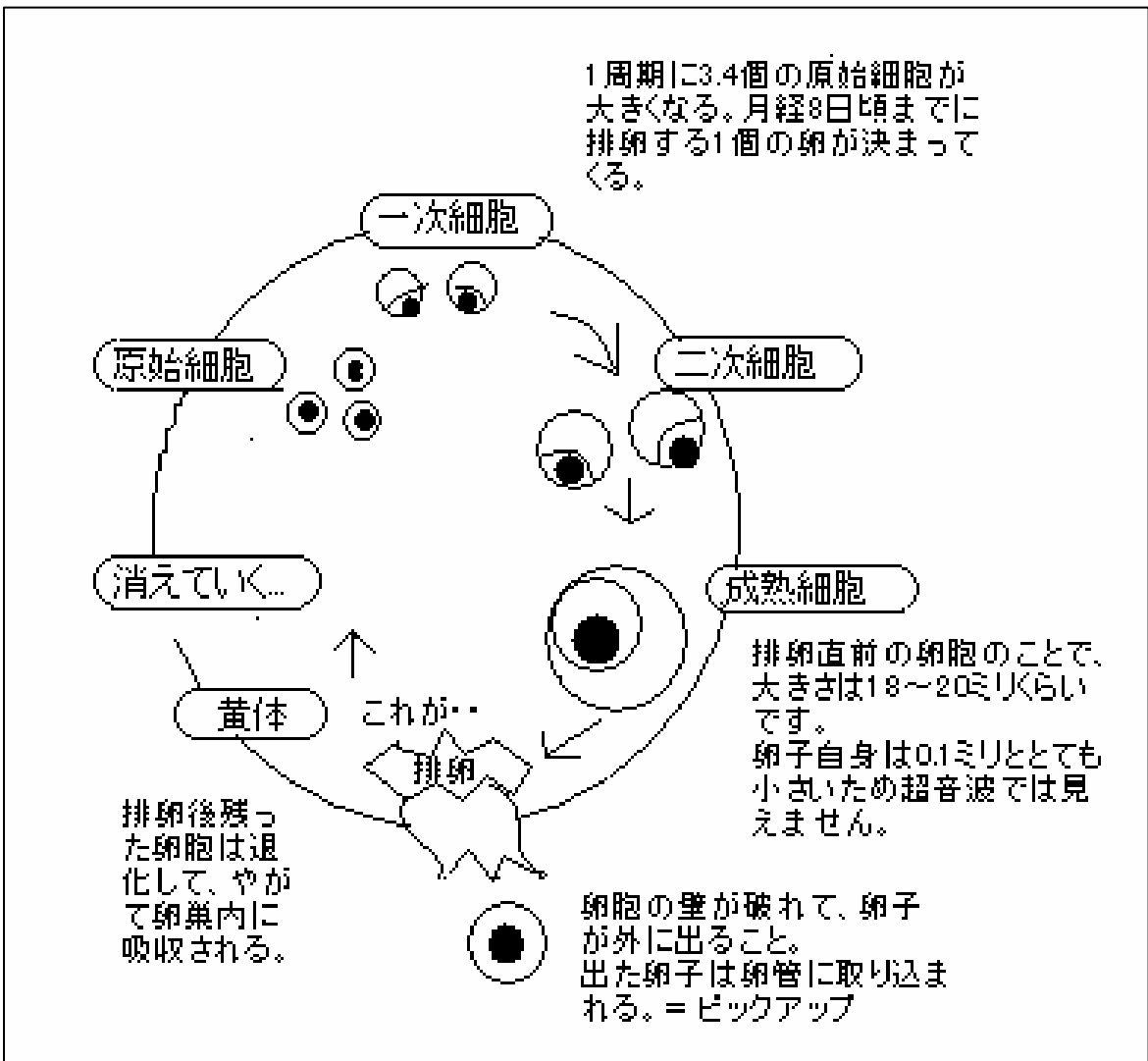


院内新聞 9月号
さくら



こんにちは。まだまだ暑い日が続いておりますが、皆様夏バテは大丈夫でしょうか？大変お待たせしました。9月号です。

今月のテーマ『生理周期とホルモンについて』
左図は卵の成長から消失までの過程です。



採血ではこんなことを
調べています。

脳下垂体から分泌されるホルモン

FSH	卵巣に働き、原始卵胞を成熟卵胞へと育てていきます。加齢などにより、卵巣の反応性が衰えてくると、このホルモンが上昇します。
LH	成熟した卵胞に作用し排卵を起こさせ、黄体化を促し黄体を形成します。排卵前期に著しい上昇があります。
プロラクチン	産後にお乳を出させるホルモンです。妊娠を望む女性で、分泌されすぎると、月経が不順になったり、排卵が障害されたりすることがあります。

卵巣から出るホルモン

E2	卵胞の成熟とともに分泌され、子宮内膜を厚くし、頸管粘液(おりもの)を増やします。
P4	体温を上昇させ、E2によって厚くなった子宮内膜をさらに着床しやすい状態にします。妊娠すると分泌され続け、妊娠を維持します。

生理周期とホルモンの分泌

卵胞期 生理一日目から卵胞期に入り、脳下垂体から分泌されるFSH(卵巣刺激ホルモン)の作用で数個の卵胞が成長をはじめます。子宮内膜は、その成長している卵胞から分泌されるE2(卵胞ホルモン)によって、徐々に増殖していきます。原始卵胞が成熟卵になるまでには約14日、長い人で25日ほどかかります。生理周期に個人差があるのはこのためです。

排卵期 E2がある量に達するとFSHが減少し、急激にLHが分泌されます。(LHサージ) LHサージのピークから約16時間から20時間で排卵します。

黄体期 排卵した抜け殻の卵胞は黄体にかわり、P4(黄体ホルモン)を分泌します。P4によって体温が上昇し、子宮内膜はさらに厚くソフトなものになります。P4の分泌が2週間で終わり子宮内膜がはがれると、生理となります。

スタッフ紹介

今月は看護師のリーダー、小野師長です。

『小野師長はスタッフから見てこんな方』

何でも相談できる雰囲気をもっていて、公私関わらず、スタッフの話聞いてくれる優しい師長さんです。時には、お茶目な可愛らしい顔をみせ、時には仕事テキパキの厳しい顔も持っています。患者様からの信頼は厚く、頼りがいのある師長です。

『小野師長から一言』

不妊治療はつらい事がたくさんあると思います。つらい時には何か手助けができたらと思います。ささいな事でもけっこうです。気軽に声をかけてください。一緒に治療に立ち向かい、一緒に解決していきましょつ。

新しいお薬について

『エストレイス』

天然型の内服型卵胞ホルモン剤です。作用はエストラーナと同様ですが、エストラーナに比べて血中濃度が維持しやすいという利点があります。エストラーナでホルモンコントロールが難しい方に使用します。

【副作用】

吐き気、むくみ、胸痛、きわめてまれに血栓、色素沈着などがあります。

今月は新聞の発行が遅くなり申しわけありませんでした。ご意見、ご感想、特集してほしいことなどがありましたら看護師にお伝えください。